



2015年3月19日

各位

会社名 株式会社 コックス
 代表者名 代表取締役社長 吉竹 英典
 (コード番号：9876 JASDAQ)
 問合せ先 取締役経営管理部長 速水 英樹
 (TEL：03-5821-6070)
 当社の親会社 イオン株式会社
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号：8267 東証第1部)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2015年2月期(2014年3月1日～2015年2月28日)の通期業績予想について、2014年4月8日に発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2015年2月期(2014年3月1日～2015年2月28日)連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	21,100	20	190	△250	△9.07
今回修正予想 (B)	21,685	30	200	35	1.27
増減額 (B-A)	585	10	10	285	—
増減率 (%)	2.8	50.0	5.3	—	—
(ご参考)前期実績 (2014年2月期)	21,680	△1,483	△1,304	△2,305	△83.62

2. 2015年2月期(2014年3月1日～2015年2月28日)個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	21,000	100	150	△250	△9.07
今回修正予想 (B)	21,495	100	170	30	1.09
増減額 (B-A)	495	—	20	280	—
増減率 (%)	2.4	—	13.3	—	—
(ご参考)前期実績 (2014年2月期)	21,407	△1,373	△1,196	△2,279	△82.66

3. 修正の理由

国内事業においては、重点施策である3つの構造改革「事業構造改革」「MD構造改革」「コスト構造改革」に取り組みました。

「事業構造改革」については、基幹ブランド「ikka」の収益力回復を目指し、特に「メンズ強化」・「雑貨強化」を推進しました。従来のカジュアル商品に加え、新たにテーラードジャケットを軸としたビジカジテイスト商品、単価の高いビジカジ系バッグ、革小物等の雑貨商品を強化しました。また欧州インポート商品も新たに取り扱い、品揃えを拡充しました。これらの取り組みがお客さまの支持を得られ、基幹ブランド「ikka」の売上高前年比は109.7%、既存店売上高前年比は101.8%となりました。

「MD構造改革」については、商品回転日数の向上と売価変更削減による売上総利益率改善を目指しました。商品のきめ細かな展開と鮮度維持に努めた結果、正価販売比率（前年差16.7ポイント改善）・売価変更率（同8.5ポイント改善）・商品回転日数（同10.0日改善）が好転し、売上総利益率は前年差2.8ポイント改善しました。

「コスト構造改革」については、不採算店舗閉鎖や人件費コントロールを柱に進めた結果、販管費前年比は93.2%となり、損益分岐点売上高引き下げに寄与しました。

また、特別損益項目において、当社が保有する投資有価証券の一部を売却したことにより、投資有価証券売却益6億6百万円を特別利益に計上し、当社が保有する店舗等の一部の固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、減損損失6億13百万円を特別損失に計上しました。

以上の結果、連結及び個別業績において、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益が、当初計画を上回る見込みとなりました。

(注) 上記の業績予想は、本資料発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上